



和田 章氏は、協会の設立者の一人で、創立時より現在に至るまで四半世紀以上にわたり、免震・制振のパイオニアとしてこれらの技術の普及・推進に尽力されました。2014年（平成26年）に会長に就任され、2022年（令和4年）まで、日本免震構造協会の活動と発展に貢献されました。

主な経歴

1970年	日建設計
1982年	東京工業大学工学部建築学科助教授
1989年	東京工業大学教授
1993年	日本免震構造協会理事
同	日本免震構造協会技術委員会委員長
2011年	東京工業大学名誉教授
同	日本建築学会会長（第52代）
同	日本学術会議会員
2014年	日本免震構造協会会長（第5代）
2021年	防災学術連携体代表理事
同	免震研究推進機構代表理事

主な功績

和田章氏は多田英之先生、山口昭一先生、秋山宏先生らの指導のもと、長年にわたり建築物の耐震・制振・免震に関する研究を進め、この分野における国際的な第一人者として活躍されています。1978年に新日鐵 渡辺厚氏、佐伯英一郎氏とともに座屈補剛ブレースなどの新しい制振技術を開発・普及させ、1991年には「地震被害制御設計の理論」を提唱されました。2005年からレジリエントシティの研究に取り組み、2017年に「大震災の起きない都市を目指して」を纏め、日本学術会議から提言として発表されています。

同氏の学術的な考え方は、建物の免震・制振技術から地震被害制御理論、そしてレジリエント社会理論へと、世界の地震工学研究の発展に大きな影響を与えています。

和田章 協会前会長、東京工業大学名誉教授

同氏は1993年に日本免震構造協会が設立された当初より理事に就任され、初代技術委員会委員長を2011年までの長きに渡り務められ、免震構造協会の技術委員会の礎を築かれました。2014年に会長に就任されてからは、海外へ日本の免震・制振構造の技術の展開に尽力されました。2015年から2022年まで国土交通省の住宅建築技術国際展開支援事業に参画し、これまで25カ国で耐震ワークショップを協会会員とともに行いました。多くの国の耐震・防災・減災技術の研究・普及・専門家の育成に尽力されました。

2015年、2018年の免震材料のデータ改ざん事案が起こった際には迅速に対応委員会を立ち上げ、原因究明並びに再発防止策についての検討を進められました。

米国・中国・台湾などに遅れていた実大動的試験機の必要性を求める機運が益々高まり、本協会の実大動的試験機の実現に向けての活動の輪は大きく広がり、本年3月末にE-Isolationが兵庫県三木市のE-Defenseの隣に完成しました。

普及委員会などにも注力されるとともに、協会のHPの充実や協会業務の改善に尽力され、協会活動の進展に大きく貢献されました。

これらの功績は極めて顕著であり、ここに、功労賞を贈ることに致しました。



2017年賀詞交歓会にて



2022年総会終了後事務局と